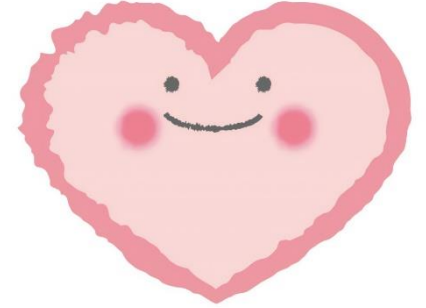
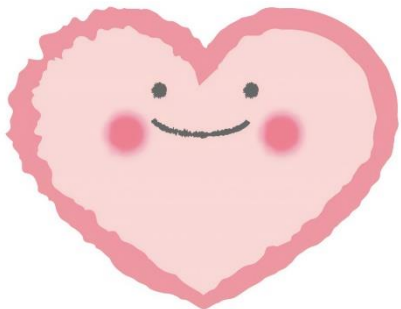


精神・身体・知的・発達障がい活躍する就労舞台
～誰一人取り残さない会社の仕組み創り・災害対策～

社員の9割が障がい者で構成される富士ソフトの特例子会社
富士ソフト企画株式会社ではPCを駆使した仕事を
お互いサポートしながら行っている。



東日本大震災の時は障がいの異なる社員同士二人一組でバディを組み
予備自衛官でもある社員の先導のもと、玉縄小学校に避難し
地域の方々のサポートをすることで社員が落ち着いた。
災害時誰かの為に動くことと心の平穏を取り戻す。
サポートされるばかりではなく、
サポートする側の役割を担うことによりパニックがおさまらず、泣き止む社員もいる。



発災

停電 寒さ 薬が切れる 常備薬がない恐怖 (障がい当事者社員)

消防団が懐中電灯で社内を照らす

玉縄小学校への避難を進められる。

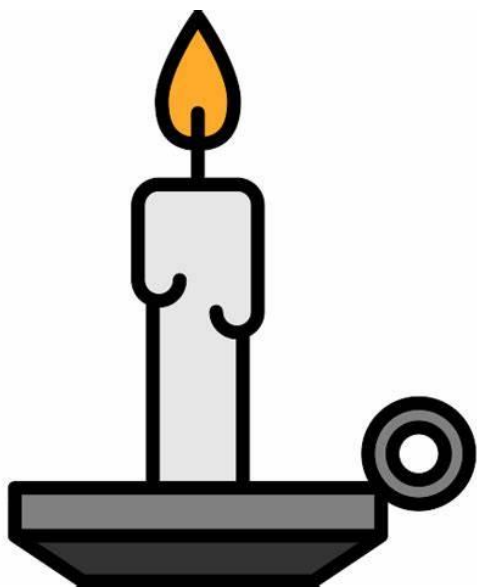
障がいの異なる社員同士2人一組のバディを組む

聴覚と視覚 身体と精神 発達と聴覚 知的と身体

発達と知的 発達と身体

地元と消防団の方が地面を照らしながら

広域指定避難所である玉縄小学校へ誘導して下さる



到着

毛布を出す ろうそくを灯す 備蓄水を出す 備蓄食を出す

近所の方が続々と避難をしてくる

毛布を敷き備蓄品を配る

人の為に動くことで社員は落ち着きを取り戻す

体育館で一晩明かす

教頭先生が到着 テレビでは押し寄せる津波の映像に一同言葉を失う

翌朝

片付ける

皆で駅まで進む 良く晴れた朝で命に感謝

多少のことで弱音を吐いていた自分が

強く生きて行こうという気持ちになったと聴覚障がいのある社員が話してくれる社員の成長を感じた一コマ。



通常

避難訓練を本番の様に行う。避難所の把握が大切。

聴覚障がいのある社員が一人で駅まで行き保護されて会社に戻って来たので

万が一の時の緊急連絡先カードを各自携行するようにした。

予備自衛官招集訓練の内容が実際の現場で活きたので

毎年の訓練参加に力を入れ集中。

